

## 日本脳炎ワクチンを受けましょう

2014.06.10

6月に入り、インフルエンザの流行もすっかりおさまり、子供たちは元気に運動会で汗を流したようです。

夏になると、夏特有の病気が増えますが、蚊が媒介する日本脳炎も皆さんに知っておいてもらいたい病気の一つです。

日本脳炎は北海道の人にはなじみが少なく、どんな病気かも知らない人がほとんどでしょう。この病気は「コガタアカイエカ」という蚊が媒介する病気です。日本脳炎ウイルスは豚に感染しやすく、豚のウイルスを含んだ血を吸った蚊が人にウイルスを運んで感染が成立する病気です。即ち、蚊が生息できる水と豚と人がいるところではどこでも起きうる病気です。人から人への感染はありません。潜伏期はおよそ2週間で、多くの人が発熱と頭痛という一般的には風邪と似たような症状で終わります。感染をした千人に一人程度は、おう吐や下痢、意識障害、けいれんなどの脳炎症状に襲われます。日本脳炎を発症した人には特異的な治療法はなく、ただ回復をひたすら祈るだけです。発症した約18%の人は死に至り、たとえ回復しても50%の人は何らかの後遺症が残るとい、本当に怖い病気なのです。

北海道では日本脳炎の豚の抗体価はすでに2000年の頃から上昇をしていることが知られていますが、発症がないとの理由で、子供たちにワクチンをするという決断には至っていません。全国では子供の発症も報告されていて、平成22年には山口県で6歳の子が、平成23年には沖縄県で1歳のお子さんが日本脳炎と診断を受けています。

北海道医師会は北海道に対して、北海道だけ日本脳炎のワクチンを定期接種として受けられない状況を改善してほしいと、働きかけを行っておりますが、残念ながら接種開始の見通しは立っていません。

ワクチンは合計4回の接種が必要です。3歳から始めて、4週程度の間をあけて2回接種。その後約1年後に3回目の接種をし、3回目の5年後に4回目の接種を行います。接種料金は医療機関によって異なりますが、7000円前後と思われます。かかりつけとご相談のうえ、ぜひ接種することをご検討ください。